

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172100774		
法人名	社会福祉法人 墨友会		
事業所名	グループホーム サンヴェール大垣		
所在地	岐阜県 大垣市 東町4丁目43-2		
自己評価作成日	平成23年7月1日	評価結果市町村受理日	平成23年9月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokohyou.jp/kai/gosi/p/informationPublic.do?JCD=2172100774&SCD=320&PCD=21□□
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地
訪問調査日	平成23年8月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームサンヴェール大垣は併設の特別養護老人ホームとの連携を重視してケアサービス提供を図っており、家族的な雰囲気と環境のなかでご利用者・ご家族・スタッフが共に無理のない自然な日常生活を過ごしていただけるよう努力しております。昨年度から継続して近隣の複数の地域密着型サービス事業所と連携事業(県補助事業)を行い、合同研修・人材交流・家族啓発など地域に根ざす活動に力を注いでいます。隣接の東町、てんじゅのグループホームとは家族会・イベント・交流会など合同開催による連携強化と情報共有により、ご家族・ご利用者・スタッフの相互交流を深め孤立化しない働きかけをおこなっています。グループホームと併設施設の全スタッフがご利用者と触れ合う時間を大切に、ありのままの姿を受入れながら、笑顔で毎日を過ごせるホームを創造しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの生活は「主体は利用者である」を旨とし、普通の生活が自然体で過ごせるように職員は「利用者の笑顔は職員の喜びであり働き甲斐である」と支える関係を重視している。同業者間の連携事業を主体的に進めており、地域住民と一緒に地域密着型事業所としてネットワークづくりやサービスの質の向上にも努力している。部門毎に6つの委員会を設置し、長期の有給休暇や計画的に休みがとれる改善をするなど、職員が働きやすい職場にしている。喫茶室は利用者や家族・友人・地域住民・職員とあらゆる人の交流の場として、いつでも自由に利用ができるため、一人ひとりに寄り添う時間を多く持つ努力をしている。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念、スローガンは各自が名札の中に入れ常に確認できるようにしている。また前回の改善目標であるグループホーム独自の理念については、スタッフ全員で納得できるものを作り上げ、わかりやすい場所に貼り実践につなげている。	職員全員で作り上げた理念と「いつも笑顔のサービスを」を基本スローガンにして、スタッフルームのわかりやすい場所に掲示している。また、名札に入れて全員が理念の共有を図り、日々の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事、活動等の情報からそれらに参加したり、個別に散歩や買物等に出かけ、地域の方たちと挨拶を交わし、関わりを持つ努力を行っている。また施設1Fサンカフェでは地域一般客とも接し、楽しいお茶の時間を過ごしている。	散歩時に住民と挨拶を交わし、地域やホーム行事に双方が参加できる自然な関係がある。喫茶室は地域住民に広く開放し打ち合わせや情報交換の場所であると共に利用者や職員との交流の場になっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	併設施設であることから、施設内事業所、外部事業所との接触機会が多いので、努めて連携に努力している。また、1階サンカフェは直接的な地域窓口として、自然な交流を促し、直接・間接的な支援・実践を試みている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回、ご利用者状況、行事等、取組み事項の内容について報告し、各委員会から助言、提案を得ている。自治会長の協力を仰ぎながら会議により多くの地域の人が気軽に参加していただけるように働き掛けを行っている。	隔月の運営推進会議には利用者も一緒に参加して、日々の実践状況や課題点を話し合っている。家族会や自治会等からの要望・意見を聞いたり、ホームの行事等に協力を図る機会とするなど努力をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期報告に加え、行事案内の通知を通して連絡、意見交換ができるようにしている。 管理者は市に出向き、市町村との関係を良好に保つように努め、近隣グループホームとの交流内容について報告している。	管理者は、随時、市役所に出かけ現状報告等ができる関係ができています。災害時の要援護者の避難生活場所として福祉避難所の指定を受けているが、具体的な協力関係ができていない。	福祉避難所としてのマニュアルを作成し、ホームとしての体制を構築されたい。ホームがもつ機能を活用できる事業の受託や市の行事に場所を提供する等積極的な働きかけに期待したい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルがある。併設施設を含めた全事業体で施設内研修や安全対策委員会からの身体拘束回避の理解、知識習得への取り組みを継続している。	母体施設に併設し境界にドアはあるが、常に開放しており、自由に行き来ができる状況にある。身体拘束マニュアルに基づき、安全対策委員会によるヒヤリハット報告や研修会を継続的に行い拘束しないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルに基づき、施設内の安全対策委員会によるミニ研修などを行い、具体的にどんな行為が虐待につながるのか等、知識の習得に努め実践している。		

グループホーム サンヴェール大垣

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	本グループホームで成年後見制度が必要なケースはいままで無かったが、制度の周知はグループホーム会議内で資料配布したり、ホーム内掲示等を行い、意識向上を図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をかけて、納得いただけるまで丁寧な説明をおこない、不明点が生じないように心がけている。契約時には、事業所の運営理念やユニット内の様子、サービス対応可能範囲についてなど説明して見学もしていただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常生活のご利用者の言葉や行動からその思いや考えを察知し利用者本意のケアを心がけている。また、ご家族には何でも言って頂ける雰囲気作りに努め、伺った要望、意見はユニット会議等で話し合いケアや施設運営に反映させている。	日頃から意見を聞いたり、不満や要望を聞く努力をしている。家族には面会時に積極的に声をかけ、運営推進会議や家族会で意見を聞いたりして、ホーム行事等に家族の協力が得られている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は月々のユニット会議や日常勤務の中で職員の意見を聞き、日頃からコミュニケーションを図るよう心がけて意見が伝わりやすい環境作りに努めている。	意見が言いやすい職員の関係が築かれ、会議は業務として位置付け参加しやすい配慮をしている。安全対策・行事・業務改善や介護部門等6つの委員会を設けユニット会議・職員会議・運営会議で検討し、運営につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各スタッフの得意分野(料理、お菓子作り、手芸、工作、パソコン等)を生かせる職場環境を整え、ご利用者と共に楽しみながらやりがいと向上心を持って業務が行えるよう、スタッフ個々のペースに任せ、勤務調整などを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修、ユニット会議内研修、職員ミーティング内での研修を励行している。各スタッフは外部研修へ計画的に積極参加するよう課しており、個人的にも上級資格へのチャレンジを促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームと利用者を交えて積極的に行き来している。グループホームケアマネジャー情報交換会への参加を通じた交流、連携を図り、昨年同様に複数事業所との連携事業を継続し交流・勉強会をおこなっている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で生活状況を把握し、まずは本人と信頼関係が築けるよう本人の思い・不安を受け止め、その思い・不安をスタッフ全員が共有し、ご家族と逐次連携を取りながら、ご利用者が安心して生活に溶け込めるために努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの経緯、ご家族の苦労、困り事や不安な事についてを一つ一つ確実に聴取し、事業所としてどのような対応ができるのか事前に話し合い、その情報をスタッフ全員で共有している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、ご本人やご家族の思い、現在の状況を細かく確認し、困っている事、不安な事に対してできる事はすぐに実践するよう対処し、困難な問題に対しても施設相談員、看護師との連携を図って速やかな対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフはご利用者と共に暮らす家族として互いに支えあえる関係作りに努めている。日々の生活から知恵や技を教えて頂く場面も多く、ご利用者からの意見を素直に受け入れて、お互いに感謝する関係が築けるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会時には日常のご様子や気づいた点を報告し確認していただき、またその折にご家族の思いを十分に聴き取り共に支えるよう同じ思いで支援できる努力をしている。面会のないご家族には疎遠にならないように支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の人間関係や地域の関係を把握して交流が続けられるよう支援している。お墓参り、自宅、地元への外出を行うことで関係継続が計られるようにし、友人・近所・お弟子さんなど馴染みの深い人達との交流継続を図っている。	入居前に併設の通所介護等に通っていた利用者は、職員と一緒に訪問し交流が継続している。喫茶室では知人や親族と一緒にお茶を飲み、馴染みの人と関係が途切れない支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性、関係を理解し、スタッフ間でも情報を共有し、その日の状態や気分を注意深く観察しながらスタッフが間に入り、ご利用者同士が仲間として生活していける支援工夫をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所へ移られても、会いに行き来して良好な関係を継続している。また、ご本人の状況、好み、ケアへの工夫などにつき情報提供を行い、今後の暮らしに配慮してもらえるように働きかけをおこなっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員はご利用者と積極的にコミュニケーションをとることで意向の把握に努め、生活歴や家族からの情報も十分に考慮しながらユニット会議の議題としてその内容を把握しながら、話し合い検討をしている。	これまでの生活歴や家族関係を把握することで思いを探ったり、日々の介護のなかで意見を聞いている。困難な利用者には、仕草や表情を見逃さず、職員間で話し合いながら意向を尊重する努力をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	イニシャルアセスメント把握から始め、カンファレンスやご家族・ご利用者とのコミュニケーション、普段の面会時の会話を経て、個人の人生観や生活歴、経歴、経験などの詳細をスタッフ間で情報共有しケアに反映できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間の送り、記録等から情報共有をしっかりと行い、一人ひとりの一日の暮らしの流れ、心身状態の把握に努めている。またセンター方式の「暮らしの情報シート」を活用し、その人らしく安心して過ごして頂けるケアを検討している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者や家族の意向をもとにアセスメントし、会議での話し合いで職員の意見を取り入れながら、介護計画を作成している。また利用者の状況変化などを毎月評価表に記録し、それをもとにプランの見直しを行っている。	日々の介護をケアチェック表で記録し、隔月の評価表でモニタリングをしている。定期的な見直しのほか、心身状況の変化時は、随時、本人・家族・担当・ユニット長・看護師を含めて話し合い、介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録ファイルに毎日の様子や本人のありのままの言葉、ケアの実践・結果、気づきなどを随時記入し職員全員が目を通すことで、利用者の状態を継続的に把握できるようにしている。この記録をもとにケアの見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族の要望で、家族に代わり受診や墓参り、自宅への送迎など柔軟な支援を行っている。又ホーム内で解決できない問題については、併設施設内で相談・話し合いを行いホーム内の枠をこえた支援ができる様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎月折り紙ボランティアがみえたり、近隣の幼稚園・小学校の子ども達と交流を図るなど地域とのつながりを大切にしている。また運営推進会議での地域包括センター職員・自治会長の報告・意見を参考にして活動に活かせる様にしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院以外のかかりつけ医受診は、本人の健康状態を口頭やFAXでお伝えした上で、ご家族同行での支援としている。受診結果は、看護師が家族から報告を聞き、職員へ申し送りを行い、連携している。	かかりつけ医を希望し家族が付き添えない場合は、職員が同行し受診している。また、受診できない時は、往診を依頼するなど、日頃の健康管理や医療面での助言が得られる関係を作っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の状態変化や気づきは、常駐の併設施設看護師へに直ぐに相談し連携を取りながら健康管理をおこなっている。夜間における連絡体制もできており、迅速に看護や受診を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院見舞いなどの本人の支援に加え、本人家族との話し合い・病院との連携を図りながら、本人に負担がかからない様に、より効果的な治療を行い、早期退院に向けた支援に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	また利用者・家族・医師・看護師・相談員・リーダーが話し合い、現状でどこまでの支援ができるのか見極めを行いながら方針を共有している。職員はターミナル研修を受けているが、本人の苦痛や希望、ケアの限界などを考慮しながら病院や併設施設での支援に切り替えている。	入居時に重度化に伴う方針を家族と共に確認の上、書類を作成し関係者で共有している。重度化や医療処置の状況により、その都度利用者や家族の意向を尊重し話し合っている。家族と一緒に宿泊し看取った経緯があり、職員と共に看取る体制ができている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時・事故発生時のマニュアルを全職員が周知して迅速な行動がとれるように努めている。また職員は看護師や外部の講師から器具の使い方や応急手当の訓練を受け、技術習得を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	グループホーム単独で毎月ご利用者と共に避難訓練を実施し避難に慣れてもらっている。器具確認・消火器訓練は、併設施設と共に夜間想定を含んだ年2回以上の避難訓練を行い、災害発生に備えた食料・飲料水など備蓄をしている。	機会ある毎に住民の参加を得て利用者と一緒に夜間想定避難訓練を実施している。備蓄品は日常用品や医薬品等は備蓄リストで管理している。簡素な食事にならないように缶詰等を活用した献立も3日分用意している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの尊厳・誇りを大切にする言葉がけや対応を行っている。プライバシーについてはユニット会議で常に検討するようにして意識し、排泄確認や失禁時などには他利用者に気づかれないよう配慮しながら行っている。	利用者のファイルは目に触れない場所に保管し、個人情報が出漏れない配慮をしている。どんな時にも人柄やプライドを傷つけないよう失禁時等は、さりげなく対処し、人目に触れない工夫をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で利用者一人ひとりと寄り添う時間を多く持ち、本人の思いや関心事を引き出せるように努めている。又食事メニューの選択や喫茶店での注文、買物、着る服などできる限り、利用者が自己決定できるよう促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人の体調や表情・しぐさをみながら、希望を聞いたりお誘いするなど、自分のペースで無理なく思い通りに過ごせるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の整容を馴染みの鏡台や化粧品で思い思いに行ってもらい、生活の張りにしたいでいる。施設内の理美容院は人気があり、事前の要望を聞いて利用して頂いている。希望によって馴染みの美容院へ行くことも可能としている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	併設施設で調理・配食されるが、ご飯や朝食の味噌汁・お茶はユニットで用意している。時に一緒に調理を楽しみながら食事会したり、おやつ作りしたり、花見に出かけたり、皆で弁当を食べたりと食事を楽しむ支援を行っている。	手作りのランチョンマットを使用し食事を楽しむ工夫をしている。月1回の食事会や毎日のおやつ作りを計画し一緒に買い物して作っている。希望や意見を提案しているが利用者が持っている力を発揮する機会が少ない。	おやつ作りは利用者と一緒にしているが、食事会の回数や利用者と一緒に食事の準備や片づけ等を行う機会を増やす工夫をされたい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事・水分摂取量を記録し、一人ひとりの健康状態や変化の把握に努めている。また施設の看護師や管理栄養士の助言を貰いながら、必要に応じて食事・水分量の調整、自助具の利用、介助方法の工夫などを行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの口腔内の状況・ケア能力・習慣に合わせた見守り介助を行っている。また細部の口腔ケア場合には、ご本人・ご家族と相談した上で定期的の往診で来られる歯科の先生にお願いし、清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、個々の排泄パターンを把握、パターンや兆候に合わせてトイレ誘導を行っている。立ち上がり・歩行困難な利用者でも残存機能を生かしながら、2人介助で出来る限りトイレでの自力排泄できるよう支援している。	排泄パターンを掴みトイレでの排泄を心がけている。夜間はポータブルトイレを使う利用者もいるが、さりげない声かけで自立への支援をしている。オムツ使用時は尿量を計測し利用者に合わせたオムツを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	施設周辺の散歩やリハビリ体操への参加、民謡体操など、体を動かす機会を作っている。また便秘傾向のある利用者には、バナナ・ヨーグルト・牛乳・青汁を朝食やおやつに多く取り入れ、自然排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には火・木・土週3回昼間の入浴だが、体調・希望に合わせて他の時間・曜日でも入浴をおこなっている。季節に合わせて菖蒲湯や柚子湯を行い、好きな音楽をかけるなど、利用者に合わせてゆったりと入浴を楽しめる工夫をしている。	利用者の希望や健康状態に合わせ、時間や曜日に配慮している。利用者毎に湯を入れ替え、好みの音楽をかけたり、希望する入浴剤を入れるなど、ゆったりと入浴できるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ひと休みできるソファなどリビングに配置し、思い思いの過ごし方ができている。夜間の不眠傾向のご利用者には無理強いせず、テレビ・CD視聴、話し相手など環境整備を行い、個人のペースに合わせて入眠できるよう支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報ファイルを作成し、全職員がいつでも薬の内容を把握できるようにしている。また毎日の心身の状況変化を観察・記録し、看護師・家族と連携をとりながら服薬支援に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	仏壇でお経をあげる方、新聞・雑誌をじっくり読まれる方、職員と一緒に洗濯たたみ・新聞折りの手伝いをして下さる方、習字・カラオケ・生け花・卓球される方など、利用者一人ひとりが楽しみや役割を持てるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望を把握し、利用者と職員が1対1で外出できる機会をできる限り多く設けている。近所のスーパーやコンビニ、薬局へ買物や、自宅・神社・お墓・花見・飲食店・カラオケ店など、一人ひとりに合わせた外出支援を行っている。	一日の始めに一人ひとりに希望を聞いて、近隣の神社への散歩や商店での買い物等を日常的に行っている。様々な場所に出かけられるように利用者と共に企画書を作成し、気分転換やストレス発散につながるよう支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と話し合いながら、自己管理が可能な方には財布を手元を持って頂いている。又利用者の希望や力に応じて、買物の時は本人がお金を所持し支払う機会を持てる様に支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも電話や手紙のやりとりができるよう支援している。又写経を書いたり、毎日の日付け書きなど読み書きの支援も能力に応じて個別に行っている。年賀状は写真入りを書いて送り、家族や大切な人との触れ合いを大事にしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	随所に利用者と職員が共同制作した作品や生け花を飾り、ベランダには野菜・花のプランターを置くなど、生活感・季節感のある空間作りに努めている。また玄関にポストや下駄箱を、居間には仏壇やソファなどを置き、馴染みのある家庭的な雰囲気づくりを心がけている。	利用者が自由に過ごすフロアでは、くつろげるように手作りの台を置いて心地よく過ごせる工夫をしている。壁には利用者が作った貼り絵や毛筆の作品を掲げ、ベランダには植木鉢や金魚鉢を置いて、季節感があり居心地良く過ごせるように配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人や数人で気兼ねなく過ごせるようテーブルの位置やイスの間隔に配慮したり、壁の随所や窓際にソファを配置し、思い思いの場所でゆったりと居心地よく過ごして頂ける様に環境整備に配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、テレビ・冷蔵庫・鏡台・アルバム・写真・編み物・習字道具など、これまで使ってきた馴染みのある物を置いている。転倒などの安全面にも十分に配慮して設置を考慮し、安心して居心地よく過ごせるよう支援している。	居室の入口には好みに合わせた暖簾を掲げ、TVやタンス・携帯電話等なじみの品を置いている。壁には家族の思い出の写真や絵画等を飾り、居心地良い居室となるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に移乗できる様ベッド柵に鈴をつけ見守りをしたり、注意を促す手紙を貼ったり、ベッド横にマットを敷き低床にして転倒事故を防ぐなど、ハード面だけに頼らず安全を心がけた環境整備・自立支援を行っている。		